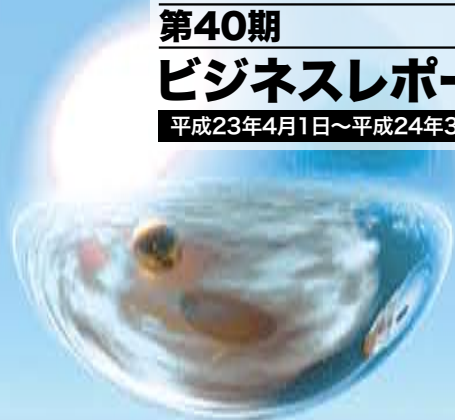


第40期

ビジネスレポート

平成23年4月1日～平成24年3月31日



 **ワイエイシー株式会社**

東証1部 証券コード:6298





株主の皆様へ



代表取締役社長
百瀬 武文

株主の皆様におかれましては、平素よりワイエイシーをお引き立て賜りありがとうございます。ここに第40期ビジネスレポートをお届けいたします。

当期の世界経済は、欧州の債務危機問題が大きく影響を及ぼし、全般的に低成長で推移いたしました。一方で、わが国経済は、東日本大震災の復興需要などにより景気は持ち直しつつあったものの、電力不足やタイの洪水の影響等に加え、円高が定着化したことにより、厳しい状況となりました。

このような経済環境のなか、原価低減、経費節減による収益力の強化を図る一方で、アジア地域を中心としたグローバル展開、および研究開発、M&Aによる取扱

製品の拡大により営業基盤の拡大強化を図ってまいりました。

この結果当期の連結業績は、売上高123億78百万円（前年同期比7.7%増）、営業利益1億81百万円（同74.0%減）、経常利益1億50百万円（同79.3%減）、当期純利益3億43百万円（同13.4%減）となりました。

当社グループは、売上規模1,000億円の優良企業を目標に、積極的な事業領域の拡大と競争力のある製品の開発に努めております。再生可能エネルギーの需要の高まりや省エネ製品のニーズを踏まえ、太陽電池製造装置、FEL（フィールド・エミッション・ランプ）および自動車向けの熱処理装置等の分野に経営資源を集中してまいります。

今後とも、当社グループは研究開発型企業として環境関連事業やハイテク関連事業を中核として、グローバル展開やM&Aの積極的な取組により、環境変化に左右されにくい企業体質をつくってまいります。

尚、当期の期末配当金は1株につき10円とさせていただきます、年間配当は既に実施済みの中間配当10円と合わせて、20円となりました。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年6月

株主の皆様へ

2

財務ハイライト

過去3年間の
業績推移（連結）

3

事業フィールド

4~6

トピックス

7

営業状況

8

連結財務諸表

9

ネットワーク

10

会社概要

11

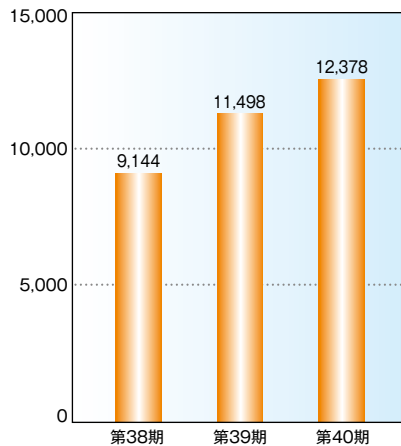
株主メモ

裏表紙

財務ハイライト 過去3年間の業績推移(連結)

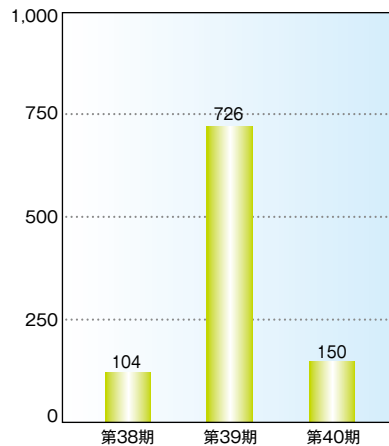
売上高

(単位:百万円)



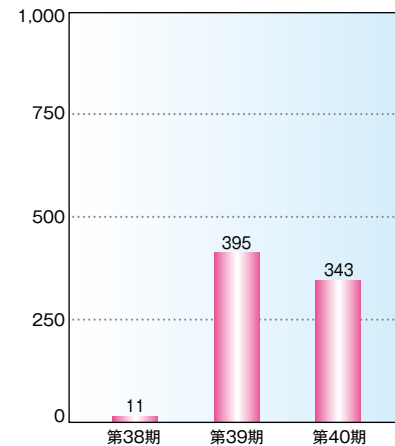
経常利益

(単位:百万円)



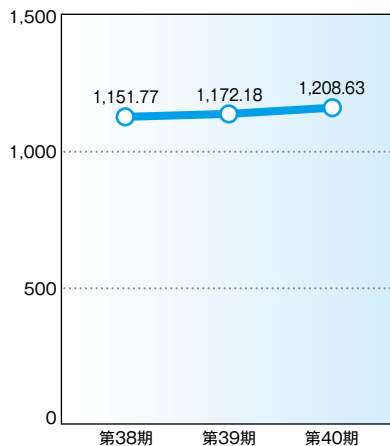
当期純利益

(単位:百万円)



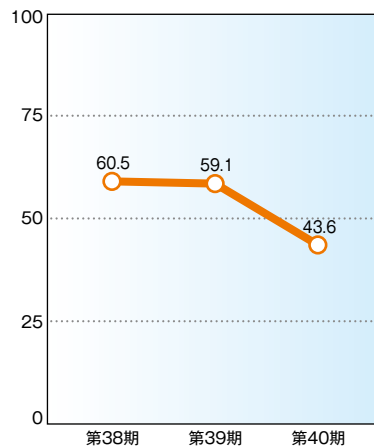
1株当たり純資産額

(単位:円)



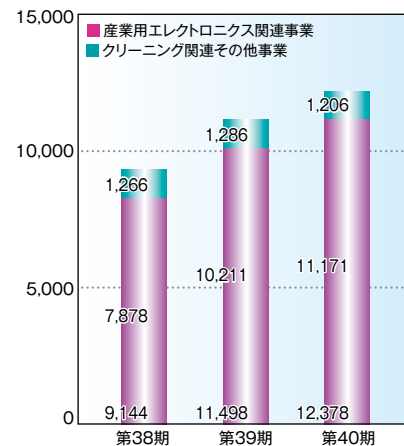
自己資本比率

(単位:%)



セグメント別売上高

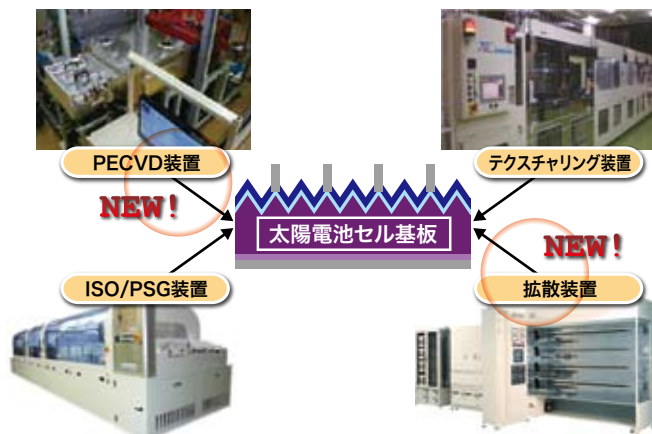
(単位:百万円)



太陽電池製造装置

装置ラインナップの拡大

地球温暖化対策、さらには東日本大震災に伴う原発問題から、太陽電池の需要は急拡大し、これに伴う装置の引合いも増加しております。このような状況下、当社は、ウエットエッチングや洗浄装置を軸に生産性の高い製造装置を提供することにより、国内はもとより、韓国、台湾、中国、マレーシア等のアジア地域における営業基盤の拡大を図っております。

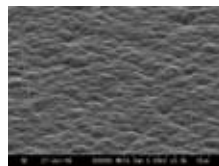
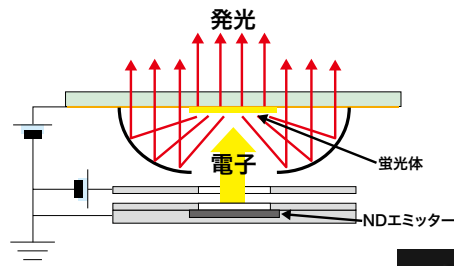


光を取り入れて電気エネルギーに変換する太陽電池にとって、できるだけ光を漏らさずに取り入れることが最も重要です。当事業部の主力製品は、シリコンウェーハを材料とする“セル”の製造プロセス装置です。エネルギー変換効率の高い単結晶シリコン太陽電池では、非常に高精度の表面加工が求められます。そこで、シリコンウェーハ表面を薬液による化学加工（エッチング）する装置の開発に力を注ぎ、1ラインあたり年間60MWという生産能力を実現できる製造装置を市場投入しました。今後は、更なる変換効率向上、低生産コストの装置の開発を進めてまいります。

FEL(平面発光ランプ)用薄膜

FELとは? *Field Emission Lamp*

FEL(Field Emission Lamp:平面発光ランプ)は、省エネルギー・省資源・脱有害物質(水銀・鉛レス)の特徴を持った地球環境にやさしい次世代照明として期待されているものであります。



NDエミッター



自動車、医療、滅菌用ランプ



卓上スタンド(試作品)

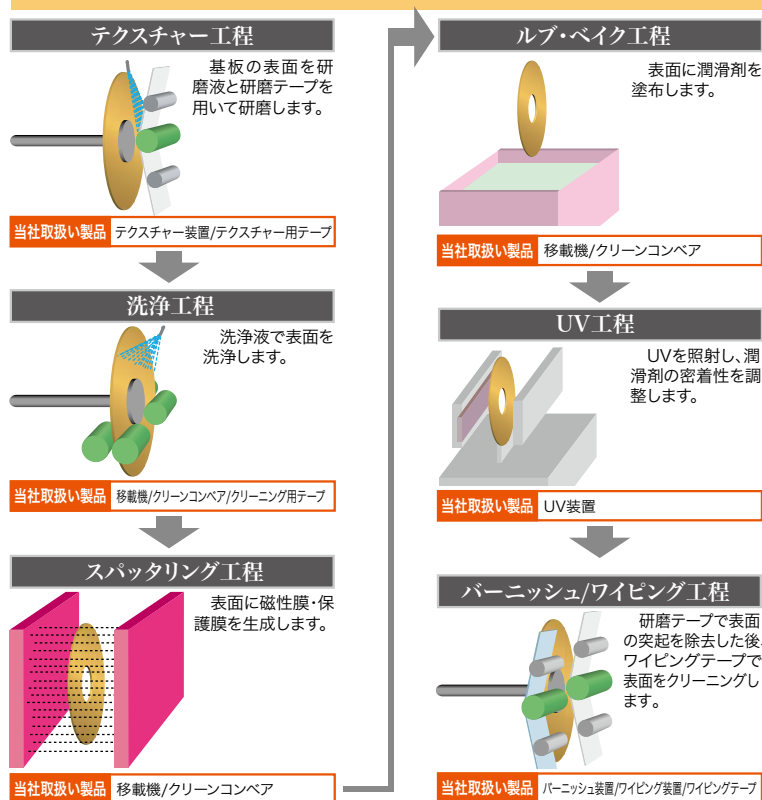
当社は、製造装置の製造・販売を主に行ってまいりましたが、この事業により初めて素材産業に参入することになります。

現在、関連会社である株式会社NDマテリアルと共同して平面型電子エミッターの事業化を進めております。さらに、ランプメーカーと提携し、エミッターを組み込んだランプ(FEL)の開発及び試作を推進しております。

特徴

- ①従来の蛍光灯と異なり、水銀・鉛などの有害物質を使用しない。
- ②LED(発光ダイオード)と比較して、
 - ・発熱量が少ない。
 - ・面発光である。
- ③色選択、合成の自由度が高い。

ハードディスク関連製品(ハードディスクメディア工程)



クリーンコンベア(HD工場向け)



モジュールの組み合わせで自由な搬送ライン設計が可能なローラー式コンベアAGV(自走型搬送ロボット)やOHT(天井架設型搬送装置)に比べ、搬送物をいつでも搬送ラインに投入することができ、搬送効率が高い。

バーニッシャー



ハードディスク製造工程において、ディスクに磁性体を生成後、表面のナノオーダーの微小突起を除去する精密研磨装置。

UVキュア装置



紫外線を照射することで、ディスク表面に塗布されている保護用の潤滑剤の表面結合力を調整できる装置です。ディスクの耐久性を高めることができます。

半導体関連製品

ICテストハンドラー

ICのパッケージング後の検査工程で、テスターと接続して使用し、テスターからのテスト結果信号に基づき、ICを良品と不良品に自動選別する装置。必要に応じて、精度の高い高温・低温(-55℃~155℃)下でのテストも行います。

高温ハンドラー H242MB



ハンドリングの性能アップ、テスト時のコストダウンを実現させたハンドラーです。4個測定のほか、専用キットを搭載することで8個測定にも対応可能です。

常・高温ハンドラー A/H500シリーズ



3~20mmまでの小型ICに対応可能な4個測定の高速ハンドラー「H543」や、効率的にハンドリングできる16個測定の「H5163」などを揃えています。

液晶関連製品 (液晶パネル製造アレイ工程)

高密度プラズマ・ドライ・エッチング装置 (GAEAシリーズ)



Plasma技術を用いた、ドライエッチング装置は、LTPS、OLEDといった、スマートフォン向けの高精細加工をはじめとして、製造プロセスの効率化や省マスク技術、大型化などに最適なプラズマエッチング装置です。

アニール装置 (RTAタイプ・YHRシリーズ)

YHRシリーズは今後のLTPSスマートフォンをターゲットとした高精細パネル製造に欠かせないRTA装置です。LTPS高精細パネルの量産に適した装置性能を保持しておりスマートフォンの更なる高性能化に寄与しております。ガラス基板の特性を熟知したYACならではのノウハウを随所に盛り込んでおります。



アニール装置 (YHAシリーズ)



YHAシリーズは今後のIGZOパネルプロセスのKeyとなるパッチタイプの熱処理装置です。量産性と高品質な熱処理とを兼ね備えておりG6サイズまでの基板に対応しております。お客様のご要望もあり、G8サイズの装置の開発を進めています。

クリーニング関連製品

(ワイシャツ仕上機)

ボディスリーブプレス機



YPS-301E TYPE2

シャツの身ごろと袖を仕上げます。

ストレッチカラーカフスプレス機



YPS-622E

襟(伸ばしながら)とカフスを仕上げます。

(全自動包装機)



YBH-001A

ハンガーにかけたまま包装する立体タイプ。

(人体型仕上機)



YJK-014A

ジャケットやコートを仕上げます。

グループ会社の社名変更のお知らせ

平成24年1月1日 株式会社デンコーは、
株式会社ワイエイシイデンコーに社名を変更致しました。

(株)ワイエイシイデンコーは、1961年8月の会社設立以来、他に先駆けて“高効率な熱源”遠赤外線ヒーターを開発してまいりました。

ヒーターの特長である高放射率、ハイパワー、フレキシブル性などを活かし加熱装置及びヒーターユニットとして広い分野に応用し、ヒーターの専門メーカーとして市場に提供してまいりました。

その製品は加熱を必要とするさまざまな分野のお客様に使用されております。

これからも専門メーカーだからこそ出来る加熱技術を提案してまいります。



自動車関連製品



ホットプレス用加熱炉

ホットプレス(～1000℃)

A・Bピラー、ロッカーパネル、ドアビーム、
サイドメンバー、フロアトンネル、
ルーフレール、マウントプレート、
キャリアー、バンパー(トラック、バス)

特長: 最高温度1000℃のハイパワー
遠赤外線ヒータ
高張力鋼板の急速加熱に最適なヒータ
用途: 各種熱間鍛造用加熱炉として
使用されています。

鍛造【金型予熱】 (～1000℃)

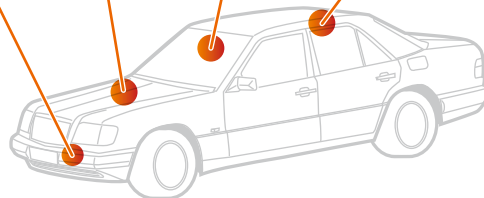
クランクシャフト、
ベアリング、
ホイール

ガラス曲げ加工 (～900℃)

フロントガラス、
リアガラス

塗装乾燥 (～450℃)

ボディ、バンパー、
ホイール、
シーリング



液晶ディスプレイ製造用加熱装置



装置外観

MB・MSシリーズ

当社が世界で初めて開発した
液晶パネル製造用
遠赤外線(IR)方式
枚葉多段加熱装置です。
世界の液晶パネルプレイヤーに、
ご愛用をいただいております。

太陽電池製造装置



◀ 電極乾燥焼成炉 (結晶系太陽電池)

その他

- ・EVAキュア炉
(薄膜系太陽電池)
- ・ラミネータ
(結晶系・薄膜系太陽電池)

■事業概況

当連結会計年度の世界経済は、米国では個人消費や民間設備投資の伸びなどの緩やかな回復の兆しがあるものの、欧州の政府債務危機問題による景気の後退、そして中国・インドにおけるインフレ懸念からの金融引き締めによる景気の減速などから全体的には低成長となりました。一方日本経済は、東日本大震災の復興需要など景気は持ち直しつつあるものの、夏場の電力不足、タイの洪水の影響、円高の定着等により、輸出環境は厳しい状況が続きました。

このような経済環境のなか、当社グループにおきましては、厳しい受注環境に対してアジア地域を中心に高付加価値製品の提案型の営業展開を図り売上の確保に努めましたが、価格競争により収益を圧迫することとなりました。

この結果、当連結会計年度の業績は売上高123億78百万円（前連結会計年度比7.7%増）、営業利益1億81百万円（同74.0%減）、経常利益1億50百万円（同79.3%減）、当期純利益3億43百万円（同13.4%減）となりました。

【セグメント別の状況】

産業用エレクトロニクス関連事業

ハードディスク関連装置分野では、パソコン、レコーダー、カーナビ等の需要停滞に加えてタイの大規模洪水による設備投資の遅延等がありましたが、UVキュア機や搬送機の拡販により業績は堅調に推移しました。

半導体関連装置分野では、新興国の自動車・家電等に係る半導体需要や3DTV・タブレット端末需要により順調に推移しましたが、秋口以降の業績は設備投資の充足感により後退しました。

液晶関連装置分野では、スマートフォンやタブレット端末等の世界的な需要拡大により中型装置を中心に底堅く推移いたしました。一部大口の売上が来期へずれ込むこととなりました。

加熱処理装置分野では、スマートフォン等の小型液晶パネル用装置の需要に支えられ、業績は堅調に推移しました。

太陽電池関連装置分野では、再生可能エネルギーの増加が予想されましたが、太陽光パネルの過剰在庫に起因する設備投資の先送りやパネル価格の下落もあり、業績は低調に推移しました。

これらの結果、産業用エレクトロニクス関連事業の売上高は111億71百万円（同9.4%増）、セグメント利益は5億11百万円（同49.4%減）となりました。

クリーニング関連その他事業

クリーニング関連その他事業については、ライフスタイルの変化等

に伴う国内クリーニング需要の減少と業界全体の収縮、そして欧米における海外メーカーとの価格競争等により厳しい事業環境でありましたが、国内外の営業拠点の整備を図るとともに一層のコストダウンを行い売上高・収益の確保に努めました。

これらの結果、クリーニング関連その他事業の売上高は12億6百万円（同6.2%減）、セグメント利益は1億43百万円（同6.0%減）となりました。

■対処すべき課題

当社の主力分野である産業用エレクトロニクス関連事業におきましては、スマートフォン、タブレット端末等の世界的展開を背景に、活況を呈しております。環境・省エネ関連分野の製品需要は、補助金制度や自然エネルギー志向に支えられ新たな展開の兆しを見せております。

こうした状況において当社グループ（当社及び関係会社）は、環境にやさしい機械をテーマとして事業に取り組み、クリーンエネルギー分野で付加価値の高い製品の開発に努め、製品の省エネ化にも積極的に取組み、より時代のニーズに応じた製品群の拡大を図ってまいります。

具体的には以下の課題に対処してまいります。

① 研究開発の拡充

多様化する顧客ニーズに応えるため事業部間の連帯を強化し、製造装置分野での品揃えを拡大するための研究開発を継続するとともにFEL（フィールドエミッションランプ）の実用化や太陽電池製造装置等の低環境負荷製品の開発に積極的に取り組んでまいります。

② 事業領域の拡大

シンガポール、中国（上海）、そして韓国の現地法人及び台湾支店の強化を図り、今後一層の経済成長が見込まれるアジア地域を中心としたグローバル化を推進してまいります。一方M&Aや業務提携により取扱製品の拡充を図ることにより、環境の変化に左右されにくい企業体質を目指してまいります。

③ 生産体制の再構築

政情不安による原油高騰、政治的思惑に起因する原材料調達不安定化、加えて東日本大震災後の電力問題、常に変化する経営環境、そして多様化する顧客ニーズに対応するために、国内外の協力会社との生産体制の連携を密に取り、フレキシブルな生産体制の構築を図ってまいります。

④ 財務体質の強化

当社は、財務体質改善のため、キャッシュ・フローの増大と自己資本増加に努め、より収益性の高い安定した事業経営と規模の拡大に努めてまいります。

連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科 目	当 期 平成24年3月31日現在	前 期 平成23年3月31日現在
【資 産 の 部】		
流 動 資 産	20,264	14,761
現金及び預金	8,733	6,538
受取手形及び売掛金	4,335	5,775
たな卸資産	6,592	2,185
その他	601	262
有 形 固 定 資 産	3,876	2,916
無 形 固 定 資 産	126	96
投資その他の資産	468	668
資 産 合 計	24,735	18,442
【負 債 の 部】		
流 動 負 債	10,015	5,206
支払手形及び買掛金	5,607	3,658
その他	4,407	1,548
固 定 負 債	3,781	2,337
負 債 合 計	13,796	7,544
【純 資 産 の 部】		
株 主 資 本	10,980	11,089
その他の包括利益累計額	△200	△191
少 数 株 主 持 分	158	—
純 資 産 合 計	10,938	10,898
負 債 純 資 産 合 計	24,735	18,442

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

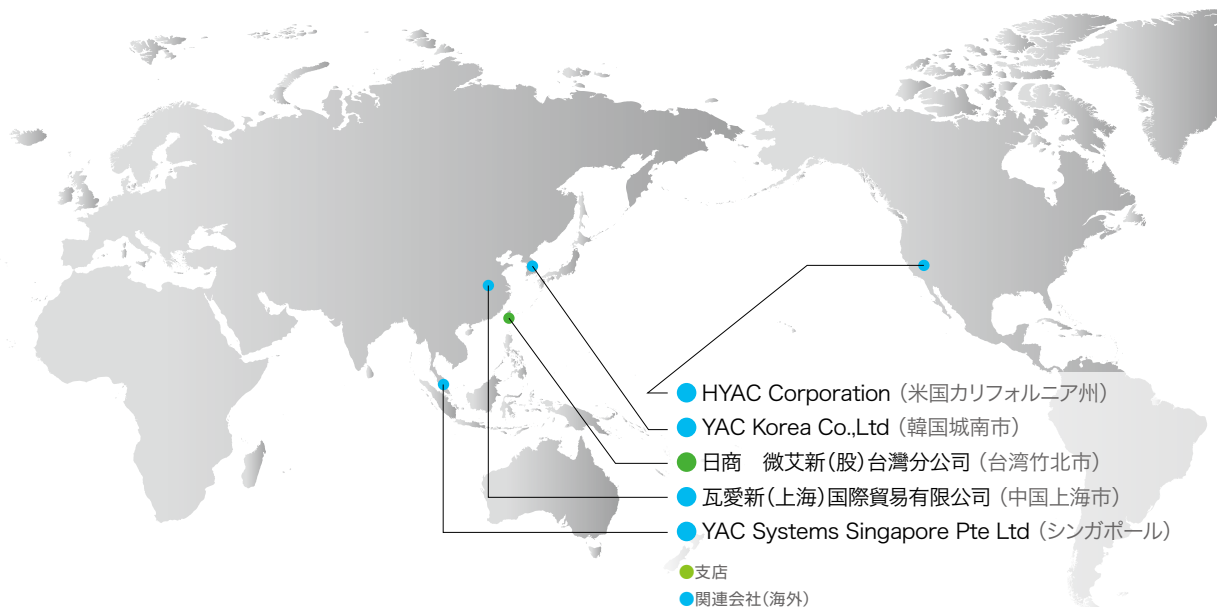
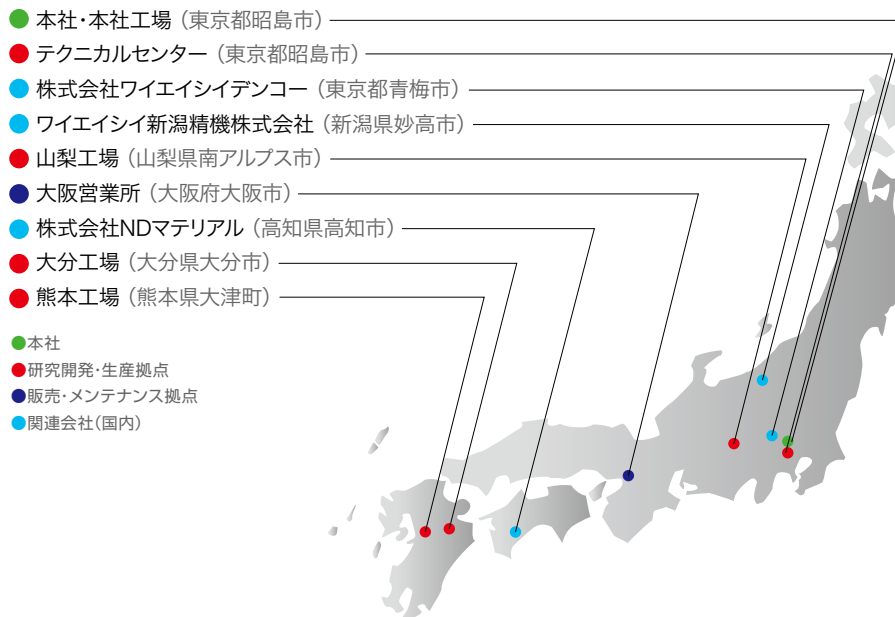
科 目	当 期 平成23年4月1日～ 平成24年3月31日	前 期 平成22年4月1日～ 平成23年3月31日
売 上 高	12,378	11,498
売上原価	9,878	9,107
販売費及び一般管理費	2,318	1,691
営 業 利 益	181	699
営業外収益	38	115
営業外費用	69	87
経 常 利 益	150	726
特別利益	255	0
特別損失	67	116
税金等調整前当期純利益	337	611
少数株主損益調整前当期純利益	426	395
当 期 純 利 益	343	395

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科 目	当 期 平成23年4月1日～ 平成24年3月31日	前 期 平成22年4月1日～ 平成23年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,760	1,854
投資活動によるキャッシュ・フロー	245	△222
財務活動によるキャッシュ・フロー	131	△295
現金及び現金同等物に係る換算差額	△19	△32
現金及び現金同等物の増減額	2,117	1,304
現金及び現金同等物の期首残高	6,520	5,216
現金及び現金同等物の期末残高	8,637	6,520

(平成24年3月31日現在)



会社概要 (平成24年6月28日現在)

商号	ワイエイシー株式会社
英文表示	Y.A.C.CO.,LTD.
本社	東京都昭島市武蔵野三丁目11番10号
設立	昭和48年5月11日
資本金	2,756百万円
従業員数	193名(出向社員・契約社員等の臨時雇用者含まず)
事業内容	次あげる自動機械の設計・製造・販売ならびに 装置開発を行っております。 ●産業用エレクトロニクス関連事業 液晶向プラズマドライエッチング装置／ICテストハンドラー／ 熱処理炉／ハードディスク用各種精密研磨装置／ ハイクリーンコンベアシステム／平面発光ランプエミッター／ 太陽電池製造装置 ●クリーニング関連その他事業 包装機／立体包装機／シャツ・ウール用プレス機／ 全自動立体分配システム

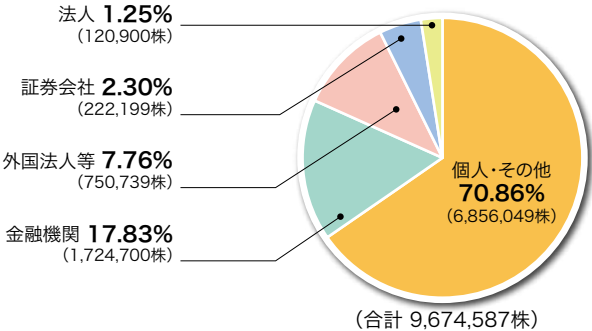
役員・執行役員 (平成24年6月28日現在)

代表取締役社長	百瀬 武文
常務取締役	佐藤 康男
常務取締役執行役員	伊藤 利彦
常務取締役	宮本 忠泰
取締役執行役員	和田 貢
取締役執行役員	大福 芳弘
取締役執行役員	副島 幸雄
常勤監査役	東田 明
監査役	勝間田 武司
監査役	石田 祥二
執行役員	西原 宗久
執行役員	曾根田 栄悦
執行役員	寺本 和政
執行役員	野口 武史

株式の状況 (平成24年3月31日現在)

会社が発行する株式の総数		34,388,000株
発行済株式の総数		9,674,587株
当期末現在の株主数	5,157名	
個人・その他 ^(注1)	4,998名	6,856,049株
法人	43名	120,900株
金融機関	29名	1,724,700株
証券会社	40名	222,199株
外国法人等	47名	750,739株

所有株式数分布状況 (平成24年3月31日現在)



大株主 (上位10名) (平成24年3月31日現在)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%) ^(注2)
百瀬 武文	1,500	16.82
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	538	6.03
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	305	3.42
ビーピーエイチ フィデリティ ロー プライズド ストック ファンド	300	3.36
クレジット スイス アーゲー チューリッヒ	90	1.01
日本証券金融株式会社	81	0.91
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口1)	70	0.79
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口6)	63	0.70
東京海上日動火災保険株式会社	61	0.69
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口3)	58	0.66

※当社は、自己株式を755,252株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
(注1)従業員・自社名義株式を含みます。(注2)持株比率は、自己株式を控除して計算しております。

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.yac.co.jp/

(ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

1. 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなります。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にでもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



〒196-0021 東京都昭島市武蔵野3-11-10
TEL (042) 546-1161 (代表) FAX (042) 546-1107
URL <http://www.yac.co.jp>